

名古屋栄に「雀おどり」あり
地球の裏側から来てくれたら嬉しい

株式会社 雀おどり 總本店 代表取締役

古橋 孝太氏



安政3年創業

——ご創業について。

安政3年（1856）です。まもなく160周年になりますが、両口屋さんは創業380年ですし、業界的に百年を越えている老舗のお菓子屋さんが多いです。

創業当時の資料を見ますと、ういろうとか団子などを売っている庶民的なお店だったようで、枇杷島から津島に抜ける美濃街道沿いにあったと聞いています。そこから大須に移転、戦後からは現在地で営業しています。

——屋号の由来をお聞かせください。

創業当時の店名は「宝餅」でしたが、大正時代に改称しました。

蓑笠をつけて踊るのを「雀踊り」と言います。“欣喜雀躍”というように、雀が喜んでぴょんぴょん跳ねて踊ることと、「みんなで楽しく」というのが由来と思います。地域が変わると“阿波踊り”“おわら風の盆”になります。最近知ったのですが、北斎マンガにも雀踊りの絵があります。

昭和20年代の新聞の織り込みチラシを近所の女性に戴いたのですが、甘いものを作れば売れる時代が終わった頃で、値下げ断行の広告でした。当時は最盛期で、丸栄前、松坂屋前、矢場町、伏見通りの4店舗があり、朝の9時から夜の11時までお客様がひきもきらなかったようです。

——ご当主は何代目ですか。

5年前に引き継ぎまして、七代目です。

新幹線開通で“ういろう”が名古屋名物に

——メイン商品と店舗について。

取材日時／平成26年8月21日(木)
11:00～12:00

取材場所／雀おどり 總本店
き き て／森田文二・古市晴比彦・
加藤育美・清水正彌



メイン商品はういろです。店舗はここのみですが、名古屋駅JR東海キヨスク、高島屋の全国銘菓コーナー、中部国際空港セントレアで当社の商品をお買い求めいただけます。

ういろは、名古屋駅で店舗の2倍の売上があります。名古屋の名物がういろになったのは昭和40年頃です。人気に火がついたのは、新幹線が開通して人の移動が多くなってからです。地方から名古屋へ出稼ぎに来ていた人たちが、田舎に帰省するとき、いつも食べ慣れていて腹持ちがよく安くて美味しいからとお土産としてもって帰ったのです。在来線でも販売していましたが、新幹線が開通することで、地元のお土産品が開発されるようになりました。

ういろの材料は米粉と砂糖と水を同量混ぜて蒸したもので、日本全国に似たお菓子がたくさんあるのですが、大須ういろさんと青柳ういろさんが“名古屋名物”としてういろを販売すると決められてから全国的に知名度が高まりました。それぞれ味わいが違いますので、うちのういろを食べたら、ういろの印象が変わったと言われると嬉しいですね。

——商品はどこで作っておられるのですか。

清須の工場ですべて作っています。白は国産のお米、黒は沖縄黒糖、小豆は北海道の十勝産、茶は西尾産、桜は伊豆の桜花を漉し入れました。味にはこだわっています。

「肩揉み朝礼」「コロコロローラー」

——ブログで大学生の職場体験記が紹介され「肩揉み朝礼」「コロコロローラー」など愉快的な名前が登場します。

朝礼の体操のときに、みんなで1列になって肩揉みします。先輩の会社でやっていたのを真似たのですが、ちょっ

と恥ずかしいので笑ってしまうのですが、朝に笑うのは一日のスタートとしていいですね。大勢で働いているとコミュニケーションがとても大事です。ただ「打ち解けて」と言われても難しいですが、体に触ったことがある人を嫌いにはなりません。

コロコロローラーは、私たち食品業界では、食品に髪の毛が入らないようにコロコロは絶対に必要なことです。1時間に1回、パートさん同士で一列に並んでコロコロをやるのですが、そのときに世間話などしてコミュニケーションできます。絆が深まりますので辞める人が減りました。

両方とも私が言い出して始まったのですが、みんなで協力するということで、評判はいいです。それを初めて見た学生さんが面白いと思って書いてくれたのです。

——秋のお勧めのお菓子を教えてください。

秋は栗や芋が美味しいです。うちの芋ういろは生のサツマイモと黒砂糖で作っています。生の芋を切って入れているので賞味期限は一日ですが、お客様は冷凍したりオーブントースターで焼いたり工夫しながら食べてくださいます。栗は蜜につけ込んで、羊羹に入れたり、生菓子に入れたり、餡蜜に乗せたりしています。

——総本店は午後になるといつも満席です。

いまカキ氷がブームでよく売れます。喫茶は先代が結婚したときから始めました。昔の店舗は工場付きでしたが、清須に工場を造ったとき、空いたスペースを喫茶にしたのです。常連のお客様が結構いらっしゃいます。

地名がブランド

——いい場所にお店を構えておられます。



そうお思いでしょうが、どうしたらいいかと思い悩んだ時期もあります。東京に修行に行っていたとき母親から「一日千円しか売れなかった」と聞いたことがありますが、いざ自分が店番するようになったとき、お店は閑散としていました。

栄の真ん中の路面で店を構えているので大丈夫と高をくくっていたら、うちに来るお客様はお菓子の袋を持ってコーヒーだけ飲みに来られるのです。松坂屋の地下にはお菓子屋さんがいっぱいあります。大リーグの横で草野球をしていると感じました。将来はあるのか、と悩みましたが、万博で変わりました。

高島屋さんに、「名古屋栄に本社があるお菓子屋さんだから」と出店を要請されたのです。

また、大学が東京でしたから、万博前後に名古屋の仕事が増えた友人に「名古屋を案内してよ」と言われて、名古屋らしいお店について考えさせられたこともあって、うちのパッケージに本社は名古屋栄と記載することにしました。地域を代表する店になる、ブランドにすることを念頭に商売をすることが大切と気付いたのです。

バックパッカーで世界を回る

——ご出身は？

清須です。両親は栄出身です。

——どのような学生時代をお過ごしでしたか。

うちの仕事をイヤとは思っていませんでしたが、GWもお盆も正月もなく仕事をしていて、家族旅行もできないし、父も継がなくていいよと言ってくれていましたから、カメラマンとかデザイナーとか、なりたいものを探していま

した。

学生時代は広い世界を見たいとバックパッカーになって、ヨーロッパは1カ月ほど2回、他にトルコ、アフリカなどあちこち回りました。一人で行くといろいろな人が話しかけてきます。「何をやっている？」と聞かれる。「父親がお菓子屋さんをやっている」と言うと、「どんなお菓子だ。今から作ってくれ」。「出来ない」と言うと、その町にある美味しいお菓子屋さんに連れていってくれるのです。「美味しいだろう。ここのお菓子は家族みんなが好き」という、自慢の町のお菓子屋さんです。

地球の裏側に来たけれど、遠くから人に来てもらうのも悪くない。日本人で名古屋出身で、うしろ屋の長男なのだから、やらなければ損だと思いました。地域に縛られた仕事だと思っていたけれど、実はインターナショナルな仕事だったのだと思い直すことができたのです。

祖父とこの辺りを散歩していると、みんなが祖父を知っていて、「雀さん、今日はお孫さんと一緒だね」と声をかけてくださる、そういった雰囲気、これからも残していきたいと思います。

——お父様は2年前に亡くなられたそうですが、会社を譲られたとき何か言われましたか。

父は余命3カ月と言われて1年半闘病し、74歳で亡くなりました。父は照れ屋なのか、ああしろこうしろとは言わない人で、かといって意見がないわけではなく、よくケンカしました。

病院で亡くなった父は、最期に私たち家族兄弟に対して、「これだけは本当に大切なことだから…」と前置きして、「家族を大切にしろ」と何度も繰り返して言い残しました。商売も長く続けていると、良い時だけではなくありませ



んし、さまざまな時期があります。

次男だった父は、自分の兄弟たちにも親身に接し、「商売を預かった」と常々言っていました。私には、「家族、兄弟の応援があってこそ、長い間商売は支えられているものだ」とも。父のそうした姿をお手本に、自分も仕事に取り組んでいきたいと思っています。

亡くなる1カ月前に葬儀場の話をしたのですが、知らない人は呼ぶなとか、駐車場のことまで気にする優しい人で、「人に親切にするように」「無駄なことはするな」とよく言っていました。葬儀には500人ほどの大勢の皆様に来ていただきましたので、父の遺影を背にして、死ぬときが期末テストとしたら、今は私の中間テストと思いが引き締められました。

夢は娘が「やりたい店」

——印象に残ったことはありますか。

社長になってすぐのことです。接客が不十分だったようで、常連のお客様から、「私は子どもの頃から通っている。あなたが至らないせいで、私が大事にしていたお店がなくなってしまうのは残念。あなたの店であるけれど、私の店でもあるからちゃんとやってください」と怒られました。有り難いお言葉でした。

またあるときは、わらび餅をお買い求めいただいたお客様に、「亡くなったおじいちゃんの棺桶に、いまから好きなわらび餅を入れてあげる」と言われたこともあります。毎日やっているとつい仕事になってしましますが、食べるのはお客様お一人お一人ということを心に留めています。

——休日はどのようにお過ごしですか。

最近自転車が好きで、先日も蒲郡のトライアスロンに出場しました。父が亡くなるまでは仕事一筋でしたが、父の闘病生活を見ていまして、人間は死ぬんだ、どう生きたかが大事だと思い、それまでは店と自宅、工場の往復でしたが、楽しみの時間ももつようになりました。

——甘いものは好きですか。

和菓子もケーキも好きです。

——お酒は？

あまり飲みません。夜遅いのが苦手なんです。朝6時には社員と同じように出社しますので、夜は会合や勉強会があっても10時過ぎたら帰りたくなくなってしまいます。

——今後の抱負と夢をお聞かせください。

職人たちには、名古屋を代表するういろを作っているという自覚をもって仕事をしてもらいたいと伝えています。遠くから来られる人もいるし、高い駐車料金を払って餡蜜をたべてくださるお客様もおられます。今日のお客様がどんな気持ちでお金を払って帰られるか、お客様の顔を見れば、この店は続いていけると思っています。

子どもがまだ1歳半で可愛い盛りです。女の子ですから跡を継いでくれるかわからないのですが、娘がやりたいと思う店にしたいと思っています。

——ありがとうございました。ういろ、とても美味しかったです。これからも、益々ご発展されることを祈っています。

海外危機管理対策・最新情報セミナー

日時／平成26年7月29日(火) 14:30~17:00 会場／昭和ビル9Fホール



第1部

海外危機管理対策最新情報

講師 大越 修氏

世界は、危険に満ちている。

8:30AM マニラ市内の社長宅から社長と運転手が車で会社に向かう途中、後続車に追突された。停車して、運転手と一緒に車から出た途端、ぶつかってきた車から降りてきた3人の男に銃を突き付けられ、彼らの車に押し込まれ、いづれかへ去った。町はずれで、運転手だけが解放され、犯人から、メッセージを夫人に伝えるように言われた。

- ◎ 社長は何故誘拐されたのか？
- ◎ 事件は防げなかったのか？
- ◎ 後続車にぶつけられた時の注意は？
- ◎ このケースでは、どう対処すべきか？

これは、誘拐事件シミュレーションの一部である。

セミナー2週間程前、7月17日オランダ・スキポール空港からマレーシア・クアラルンプール国際空港に向かってマレーシア航空17便は、高度1万メートルでミサイル攻撃を受け、ウクライナ・ドネツィク州グラボヴォ村に墜落した。散乱する残骸と地上に激突炎上する映像が世界中を駆け巡った。

クリミア半島の紛争。イスラム国の勃興。南シナ海の領

土。タイの混乱。シリア内戦。イランの核開発。大洪水・大地震・竜巻の自然災害。エボラ・デング熱のウイルス拡大。さらに経済格差・宗教民族対立・難民・麻薬・国際テロなど、世界は危険に満ちている。

なかでも身代金誘拐事件は、30,000件を超えているそうだ。NYA,Internationalは、危機管理・対応専門コンサルティング会社で、24年以上にわたり、拉致・監禁・誘拐・海賊行為・恐喝・不法拘束・悪意ある製品改変などの事件や世界的危機に対応できるように、顧客をサポートしてきた。講師の大越修氏は、警視庁に20年間在籍。この間3年間は外務省に出向し、ニューヨーク領事として米国のセキュリティー対策を経験すると同時に、米国FBI、DEA、NY市警などと親交を持つ。

第一部では、NYA.I.J.の紹介と海外のセキュリティーの現状、企業の安全配慮義務、海外危機対応について解説し、身代金誘拐事件の実態と社長誘拐を想定した対処方法を指導した。

未加入法人を対象としたセミナーであり。参加者が初対面ということも考慮しても、かなりの緊張感が漂う。

講師は対応と判断について発言した参加者に、次々と問題点を指摘し、最善策を導いていった。



うちの社長が 誘拐された!?

講師/NYA International Japan 大越 修氏 『海外危機管理対策最新情報』エデルマン・ジャパン(株)代表取締役社長 ロス ローブリー氏



第2部

海外危機広報の最新事情と対策

講師 ロス ローブリー氏

信頼という資産を守る

“信頼を築くには20年かかるが、台無しにするのは5分で充分だ。そのことを頭に入れておけば、今後の行いは変わるだろう” —— 米国投資家 ウォーレン・エドワード・バフェット氏

第二部では、海外危機広報の最新事情と対策と題して、クライシス（危機）によって失われる企業価値について学んだ。

日本在住35年のロス・ローブリー氏は、三洋証券入社後、外資証券会社2社の上級管理、広告会社での敵対的株式公開買付けなどの広報アドバイザーを経て、国内最大手の広告会社ブラップ・ジャパンの専務取締役兼最高執行責任者として、多くの企業の危機広報に携わり、2010年エデルマン・ジャパンの代表取締役社長に就任、ソーシャル・メディアを含む複雑なメディア環境での危機広報について国際会議などでも講演している。

セミナーでは、近年急速に発展したデジタル時代の影響で、クライシスをめぐるニュースがウイルスのように広がり、瞬時に世界中にばらまかれていく実態を紹介した。

- ◎ 1時間：クライシスの30%が国境を越えて広がる
- ◎ 21時間：意味のあるコメントを企業が出すのにかかる時間
- ◎ 24時間：クライシスの70%がグローバルに広がる時間
- ◎ 53%：クライシス後に株価が戻らない

古人曰く、勝って兜の緒を絞めよ、と。

デジタル時代のクライシスが伝わるスピードに驚かされたが、亡くなった元首相の田中角栄氏が語った言葉が脳裏をかすめた。

「いいか早坂（角栄氏秘書）。いい噂はなかなか伝わらないが、悪い話は光より速い」。

セミナーのテキストの巻末に次の言葉が記されていた。
“居安思危” — 安きに居て危を忘れず、治に居て乱を忘れず
—— 出典 左丘明 春秋左氏伝より



「住吉の語り部になりたい」④

三業者の街、終戦後住吉の商人達

料亭つたも主人・深田 正雄

元禄の頃、御畳奉行朝日文左衛門は芝居が大好きで、目立つ本町通を避けて住吉界隈で深編み笠をかぶって、若宮八幡、清寿院、大須観音、七つ寺に出かけたようである。このころから本町の東、住吉通りは芸者・置屋・料亭の三業者の街として栄えました。

祖父、良矩曰く「戦前の住吉は、芸者300名、料理店・置屋40店舗以上で大きな料亭が軒を連ねてい

た…」とのこと。私も小学生の頃には、住吉通りの西はキャバレー、東は割烹店が多く繁盛していたことを思い出しております。

何か記録はないかと思っていたところ、前回③掲載した昭和34年4月・皇太子殿下・美智子さまのご成婚を祝って産宮住吉神社建立時の寄進品より、当時の進駐軍マーケットから神武・岩戸景気に沸き立つ商売のツワモノ達をたどっていきます。



参宮住吉神社：若宮八幡社・境内北東

《寄進内容と当時の商人紹介》

鳥居一対：料理旅館蔦茂（住吉町2丁目）…祖父良矩が若宮の専務総代を務め、当時は旅館としても繁盛、この頃、南館ビル建設、日本画の収集にも熱心でした。屋号の蔦茂は明治時代に若宮にて好評の歌舞伎「一本刀土俵入り」の大関・茂兵衛と芸妓お蔦さんからいただいとか？？おかげさまで創業100年の名古屋市内では最も歴史ある料亭です。

狛犬一対：山田久太郎（2丁目）…キャバレーメイフラワー経営、ミカドの山田泰吉氏の実弟、多くの米兵が出入りしておりました。よく火事騒動があり、近所ではハラハラの連続でした。久太郎氏は外車が好き、赤いサンダーバードに正雄君は乗せてもらって大喜び。兄同様、経営が困窮して事業処分されました。現、上田浩嗣オーナーも名前は継承されて、飲食テナントのメイフラワービルと呼ばれています。同氏は町内会長として街づくりに尽力されています。

燈籠一対：浅井鎮一・川本真一（3丁目）…中京既製服として、いち早く既製服（首吊り背広）を全国のテラーに販売、現在はマンション経営。



千代富久・赤玉会館



住吉鳥居蔦茂

清め洗い：菊花堂本店（2丁目）…明治時代外松鋳三郎創業の文具卸老舗、皇室の菊の御紋がトレードマーク。絵葉書、地図、アルバムでは著名。同社の自主廃業に伴い、現在は愛知コクヨ加藤憲株式会社の関連組織となる。かに道楽跡地となり、現サラ・スクエアビル

神殿横・石柱一対：近藤産業株式会社（2丁目）…老舗の鞆卸商として活躍、先代は住吉3丁目水野鞆店から独立創業したとのこと。当時から本町を中心に鞆袋物問屋が多く全国の百貨店を販路としたようです。現在は、若者向け飲食店の今昔物語、パロンなどが入居。

石柵碑・正面北角：中部観光株式会社赤玉会館（1丁目）…日本のドンキホーテ山田泰吉氏・戦後最初の事業：「特殊慰安施設協会」が従業員を募集していた。たかをくくっていたら、若い女性が殺到したとしばらくして報道されていた。「女は現実的だ」と再認識した彼は、昭和21年、進駐軍を相手にした「赤玉」というキャバレーを、広小路角の焼け残った富国生命ビルで開業、23年には中部観光株式会社設立、幅広いレジャー産業に参入、そして、翌24年にはパチンコ赤玉会館をオープン。その後のキャバレーミカドの展開は余りにも有名。跡地は東急イン栄となっています。

日本を振りかえる— 3

会友 藤間工業株式会社 代表取締役会長 藤間 敏雄

岩手出身の政治家

「銀河鉄道の夜」と東北大震災の多くの家族の悲しい別れを関連づけようと思った理由の一つは、今まで言えなかった私の若い日の思い出がある。高校生のとき、一人だけの弟と私の二人が、水難事故にあった。

その結末は、弟を亡くしたカムパネルラに、私がジョバンニ、事故の状況はパニックで、悪くするとザネリだろうという妄想だった。今回の震災は当時の無常を思い出し、あらためて賢治の文章から救済を与えてくれた気がする。（宮沢賢治は吉本隆明とR・パルバースの文献による）

さて宮沢賢治が東北ロマン主義の作家とすると、日本の歴史を変えた軍人石原莞爾はリアリストでありながら世界をロマン的思想で解釈し、結果は夢の如く去った。「農本主義」「国柱会」「法華経信者」としては賢治と共通している。私には「火宅の喩え」以外の法華経は長すぎて不勉強だが。石原は、娘さえも売ったという東北農民の困窮を移民で救うため、岩手県盛岡出身の板垣征四郎の命で柳条湖事件を策謀し、満州事変、満州国独立を実行した。しかし自身が温めていた「日米最終戦争」の論理により、軍部の日華事変拡大と対立し、おかげで戦犯を逃れた。山形県鶴岡の出身で日本近代

軍国主義の最重要人物。一方、板垣は軍と対立せず、政治学者丸山真男が名付けたいわゆる「タコツボ」の中で出世して、中国侵略の張本人としてA級戦犯になり絞首刑になった。

岩手県・東北地方は前大戦にかかわる軍人・政治家が輩出している。海軍の米内光政（1948年死去）と陸軍の東条英機（1948年戦犯で絞首刑）は共に岩手県を故郷とし両軍のボスであり戦時中の首相を務め、その後の敗戦までの日本の運命を定め、方針を誤った。タコツボの出世主義者だった。

しかし岩手県は日本近代史上最大の政治家、原敬（1856～1921）を生んでいる。盛岡藩家老の家に生まれた。当時藩閥の時代で、東北は逆賊（旧幕臣）という空気の中で自ら平民となる。情報収集の周密さ、卓抜な指導力、知的な政略と大胆な実行力、国際的視野の広さにより、大正期の政界をリードして、ついに1918年に初の政党内閣を実現、首相になった。偉人だと思う。しかし悪漢により暗殺された。急激な民主化で非業の暗殺で倒れた痛ましい例はJ.F.ケネディだが、利権こそ最大の悪だろう。

陸前高田の沈黙

花巻と宮沢賢治の話が長すぎた。

旅の続きに移ろう。バスは南下して平泉に着いた。平安末期の藤原三代の栄華は、当時の陸奥が黄金の大産地であることを示しているが、やはり辺境の地の悲しさで、全国に支持された頼朝の武家政権樹立への文化的対抗ができずに中尊寺の金色堂を残して滅亡した。

江戸元禄時代になって、芭蕉が自分の俳諧の道の広さ、深さを自ら実証するため「奥の細道」という大旅行を、みちのくで敢行した。私は俳句も詠めないが調べると、それまでの俳句は、複数の人々が集まって連歌のように詠んでいく知的娯楽の要素が強かったが、芭蕉は五七五の上の句に時空観ないし宇宙観、さらに人生観を封じ込め、独特の個人的創造を作った。即ち芸術としての俳句の完成である。奥の細道の旅で多分、最北端の地が平泉で、「夏草やつわものどもが夢の跡」「五月雨の降りのかしてや光堂」を対にして、無常迅速と、生き長らえるかすかな光明をうたっている。東北の旅は時空を越えてものを思わせる雰囲気がある、と金色堂回りのゆるい坂道を歩きながら考えた。俳句については、紙数があれば再考したい。

一関からバスは三陸山地に入り、うねうねした山道を一時間で越え急に水田が現れるが、何と稲が皆無で雑草のみが茫々と続く。早くも被災

宮古市浄土が浜



地に突入したのである。谷が開けるとかなたに海が煌き、手前は草に覆われた平地があるのみ。陸前高田市なのだ。私は全大戦の焼け跡以後は「都市の廃墟」は見えていない。

草茫々の元市街地の跡は、家のコンクリートの基礎だけが残し、白く目をさす。復興のトラックなど期待していたが、この時点では全然静かでひとけがなく、沈黙が覆う。

やっと津波襲来の3・11を思い出し、死の重苦しさを感じてきた。犠牲者の断末魔が海水のなかに絶叫となった。あとは言葉を知らぬ。

三陸被災地の旅

カンカン照りの青空のもと、この陸前高田の空気は「透明と沈黙」とでも言えようか。津波にも流れなかった鉄筋建物も所々あるが、3階までは浸水で使えない模様だ。有名になった「奇跡の一本松」は、実は本日9月11日で震災1年半になるので、再生を図るために明日切り倒されるのだ。今日が最後の生きた姿だ。その近くまでは行けたが、珍しく人が大勢見物しており、懐かしんでいるようなので、バスでは傍まで近づけない。遠くで見ても形が美しい松だ。それにしても五万本と言われた名勝指定の松原が根こそぎ無くなって、一本だけ残ったのは、不思議で

ある。堤防もあったらしいが、役に立たなかったのだろうか。

陸前高田市は被災前は人口約2万5千の漁業と観光の街だった。長い海岸線は陸中海岸国立公園に属した。従って幅広く今回の津波に襲われ犠牲者1814名（うち確定死亡者1599名）倒壊家屋3341戸、（いずれも平成25年末現在）という東北最大の犠牲者を出して壊滅した。市民も口惜しい思いだろう。市街の北外れに小高い丘があって、吉田正子さんのお花畑があり、ボランティア体験として、被災地に花を！と活動している吉田さんのお花鑑賞と畑作業の手伝いをした。もちろん犠牲者のご冥福を心に念じて。ちょうど被災一年半の14時46分になったが、黙祷を知らせて鳴るはずのサイレンが鳴らず、美人の吉田さんも少し残念そうに、市長に苦情を言いますからと、みずから黙祷の音頭をとった。見下ろす廃墟の街は静かだった。吉田さんの話だと、戸羽市長は当選一カ月で災害に会い、奥様を津波で亡くされたという。市民の大多数が最も愛する人を失っているという、この静けさ。

名古屋市がこの陸前高田市へ職員を素早く大勢送り込んだのは、まず上出来で、現在も援助を続けているのは大変嬉しい。

悲惨な風景を見ている時は呆然だが、人の心を思いやるのは数分後く

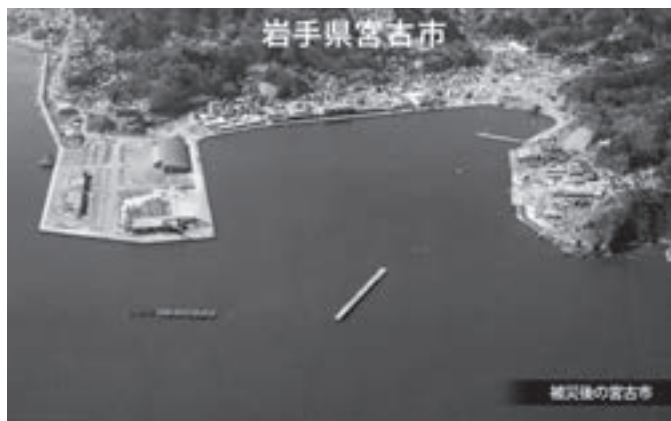


らいで、涙をじっと堪える。三陸被災地はここからずっと続き、同じ気持ちが続く。

リアス式海岸に沿ってバス道路はうねうねと、不通の三陸鉄道線を横に見て大船渡（震災最高の11mの津波が来た）などを経て、製鉄の街釜石に着くと山の手の市街地は被害も少なくやや活気があるが、少し海よりの避難地、鵜住居小学校では一挙に四十人の命が奪われている。ここから陸中の由緒ある有名地の大槌、船越、山田など、次々と漁業地は壊滅で、日暮れて、宮古に着いた。

堤防は必要か

浄土ヶ浜パークホテルで一泊し翌



岩手県宮古市の港
(左) 被災後、(右) 被災前